

開通 50 周年

黒之瀬戸大橋



長島町と阿久根市を隔てる黒之瀬戸海峡。八代海と東シナ海をつなぐ幅500メートル、長さ4キロメートル程の狭い海峡は、最大潮流8ノット（約15キロメートル／毎時）と常に流れが早く、日本三大急潮のひとつとして数えられています。

海峡の往来は、かつては個人の船、県営の動力船、カーフェリーなどが運行していましたが、運べる人や物の量、運行回数などに限界（フェリー3隻で、1日23往復、乗客700人と自動車350台）がありました。黒之瀬戸大橋の開通により、徒歩で約7分、車で約40秒、24時間いつでも往来できるようになり交通環境が劇的に改善されました。

架橋に向けて昭和38年、長島町、東町（当時）、阿久根市は、黒之瀬戸架橋期成同盟会を結成し、1市2町を上げて、住民のはがきによる陳情活動や、小中学生による作文陳情など、行政・住民が一丸となって国などの関係者への要望活動に積極的に取り組み、住民の悲願であった黒之瀬戸大橋の開通が実現しました。

昭和49年4月の開通以来、半世紀にわたり、両市町の住民の暮らしを支え、経済・文化の発展に貢献してきた黒之瀬戸大橋。

今回は、長島町・阿久根市の広報紙の合同企画として、開通50周年を迎えた黒之瀬戸大橋を特集します。

黒之瀬戸大橋

橋種形式	下路式3径間連続トラス橋
全長	502 m
幅員	全幅員8 m
高さ	海面から約27 m
起工	昭和47年5月
閉合	昭和48年7月23日
開通	昭和49年4月9日
発注者	(旧)日本道路公団
施工業者	(下部工事) 鹿島建設(株) (上部工事) 川崎重工業(株)
建設費用	18億5千万円